

## 主体的・協働的に取り組む保健学習

－各学年に応じたプロジェクト学習を通して－

立山 泰伸

今までの保健学習の授業では、若干の体験活動はあるもののそのほとんどが講義形式で、そこに探究活動はあまりなかった。今までの知識の詰め込み型の受け身的な授業から、生徒一人一人が主体的・協働的に取り組めるプロジェクト型の授業を発達段階に応じて全学年で展開していく。どの学年も自分が興味をもった領域を選択し、同じ領域を選んだ仲間とチームを組むようにした。

第1学年では、「JKK（自分の体を解明する）プロジェクト」と題し、「心身の発達と心の健康」の内容について、テーマを選び、それを探究し、ポスターセッション形式でみんなに発表する。

第2学年では、「JKK（自己の健康安全を考える）プロジェクト」と題し、「障害の防止」「健康な生活と病気の予防」の内容について、第1学年と同様な方法で探究していく。ただし、探究した内容は、ポスターセッションではなく、他の生徒に授業という形で共通理解を図っていく。

第3学年では、「MKK（みんなの健康安全を考える）プロジェクト」とし、「健康な生活と病気の予防」の内容から1つテーマを選び、それに関係する内容で、これからの生活の参考になるヘルスライフプランをみんなに提示することで、健康な生活とは何かを考えさせていきたい。

### 1. はじめに

#### プロジェクト学習を取り入れた保健学習

保健体育の授業にとって、どうしても実技の授業が中心となり、保健学習は身体を動かしたい生徒達にとって、あまり歓迎されない学習の1つであった。体育教員としてもできるだけ飽きさせないように、簡単な実験や動画の視聴、さらにはケーススタディなど場面場面で行ってきたが、生徒達の「運動がしたい」という欲求を一掃するまでには至っておらず、主体的な学習とまではなっていなかったように感じていた。

そこで、本年は新たにプロジェクト学習を保健学習に取り入れ、生徒達が主体的・協働的に学習できるカリキュラムデザインを組んでいった。

2年生では「交通事故」「自然災害」「生活習慣病とその予防」「喫煙と健康」「飲酒と健康」の5つのカテゴリーの中から興味を持ったものを1つ選び、同じカテゴリーに興味を持ったもの同士でチームを組むようにした。

智士は普段学校生活において何事も一生懸命真面目に取り組んでいるが、積極的に発言するタイプではない。今回、「昔、父と母が喫煙をしていて、それがどのような影響を体に与えるかを知りたいから。」という理由で「喫煙と健康」を選択した。

琴美も智士と似たようなタイプではある

が、「未成年でたばこを吸っている人を見たことがあるので、どういう体の影響があるのか知りたい。」と実体験から「喫煙と健康」を選択した。

広大は他の生徒とは違った感性を持ち、面白い発想で意見を述べることもある。興味のあることには意欲的に活動するが、興味がなくなってくると居眠りをしてしまう生徒で、今回は「喫煙の害をもっと知りたいから」と言う理由で「喫煙と健康」を選択した。

以上3人が「喫煙と健康」のチームを結成し、探究していくことになった。

### 2. 学びの実際

#### (1) 探究のねらいの確認する（第2時）

JKK（自己の健康安全を考える）プロジェクトを始めるにあたり、探究シートを使って、探究の方向性をチーム毎に確認していった。

「喫煙と健康」チームも教科書を開きながら話し合いに入った。

広大：これを見てパッと思いつくことは何かある？

みんな考える。

広大：未成年の時に吸うのはよくないけど、大人になってからは個人の自由だと思う。

智士：自由だけど、周りに居る人にも迷惑がかると思う。

琴美：やっぱり、喫煙の危険性は伝えないと。

広大：喫煙との関わり方が大切だね。  
 智士：「喫煙と健康」とあるから体との関わりを調べないと。体への害を知って、喫煙の危険性を知らせよう。  
 みんな：そうだね。  
 智士：僕は大人になっても吸いたくないけど、友達に誘われたらちゃんと断れるようにしたい。  
 琴美：喫煙による死亡率とかも調べたい。

**JKK(自己の健康安全を考える)プロジェクト 探究シート ~2年生用~**

喫煙 名前( )

1. プロジェクトメンバー

2. 探究するテーマ  
喫煙の健康への影響

3. なぜこのテーマを選んだか？(テーマ設定の理由)  
将来もし誘われたとしても健康への影響を知っておく事で断れると思うから

4. このテーマを探究してみんなに何を伝えたいか？(探究の目的)  
喫煙の危険さと周りへの影響

5. どのように探究していくか？(探究方法) ※2つ以上に○をつける  
 教科書・ワーク    インターネット    書籍  
 インタビュー    アンケート    その他

6. 何を使って授業をするか？  
 ポスター    パワーポイント    プリント  
 その他【   】

「喫煙と健康」チームの探究シート

喫煙が健康によくないことはみんな認識していた。でも、なぜよくないのかは分かっていなかった。さらに広大は、健康によくないものと知っていて大人が吸っていることにも関心を示し、その謎を知りたがっていた。両親が喫煙経験者の智士は、将来自分が喫煙者にならないためにもしっかり探究していきたいようであった。

<探究するテーマ>  
 喫煙の健康への影響  
 <テーマ設定の理由>  
 将来もし誘われたとしても健康への影響を知っておくことで断れると思うから。  
 <探究の目的>  
 喫煙の危険さと周りへの影響を知る

以上のように、「喫煙と健康」チームの探究の方向性が決まった。

(2) 授業の中心発問を考える (第3時間)

今回のプロジェクトのゴールは、探究したことを授業形式でみんなに伝えることである。本時間では、授業シートを使い、指

導案を立てるための前段階として「授業のねらい」「中心発問」「提示する資料」などを考えた。

「喫煙と健康」チームも早速話し合いを始めた。

智士：授業のねらいは探究の目的でいいよね。中心発問はどうする？

広大：「なぜたばこを吸うと思いますか？」はどうか。

智士：なぜ、吸うかではなくて健康への害について聞いた方がいいんじゃない。

広大：「タバコによる害を考える。」は？

琴美：発問だから問いかけるようにしないと。

智士：「タバコによってどんな健康への害があるか知っていますか？」にしよう！

琴美：健康への害だと自分だけにならない？周りの人への害もあるよ。

智士：そうだね。じゃあ、あえて健康という言葉をとろうか？

広大：じゃあ、「タバコによってどんな害があるか知っていますか？」でいい？

みんな：そうしよう！

**JKK(自己の健康安全を考える)プロジェクト 授業シート ~2年生用~**

チーム名(喫煙と健康) 名前( )

1. 授業のねらい(授業でみんなに何を教えたいか?)  
喫煙による体への害や危険性を理解させる

2. 授業の組み立て  
 <中心発問>(この問いを考えさせることで、ねらいに近づける)  
 あなたはタバコによってどんな害か、他の人への影響の資料あるかを知っていますか  
 <提示する資料>(何があったらみんなに授業のねらいを伝えられるか)  
 喫煙した時にわかる手が書いている資料  
 病気に関するグラフ

3. 授業をするために必要な知識(次の授業で探究していく項目)  
 タバコを吸ってかくなる確率  
 タバコによっておきる他の人への影響  
 長い間タバコを吸うとどうなるか  
 タバコの成分  
 タバコのやめ方  
 何で国はタバコを売っているのか?  
 電子タバコは害がある? ない?  
 害があると知っていてもタバコを吸うのか?

「喫煙と健康」チームの授業シート

中心発問は授業を行う上でとても重要なポイントである。広大は、健康に害があるものをなぜ大人は吸うのかに興味を持っており、「なぜ吸うのか？」という中心発問を考えしたが、健康との関連をもたせたい智士は健康被害を考えさせたくて、「どんな健康への害があるか？」を考えさせる提案をした。しかし、琴美は、自分への健康被

害だけではなく、周りへの影響やなぜやめられなくなるのかも考えさせたいということで、あえて発問の中に健康という言葉を取るように提案した。みんな、この意見には納得をし、中心発問「あなたはタバコによってどんな害があるか知っていますか？」が決定した。

また、その授業を行うのに必要な教材研究として以下の内容を生徒達は話し合っ確認した。

智士：どういう害があるか分かる資料が必要だね。

琴美：タバコって麻薬と一緒になのかなあ？

広大：国が売っているからなあ。

琴美：何でそんなもん国は売るんだろう？

広大：大人へのステータスって言っていたのを聞いたことあるよ。

智士：何でタバコはできたのかな？その始まりも知りたいね。

#### <教材研究内容>

- ・タバコを吸ってガンになる確率。
- ・タバコによって起きる他の人への影響。
- ・長い間タバコを吸うとどうなるか？
- ・タバコの成分は。
- ・タバコをやめられない理由。
- ・何で国はタバコを売っているのか？
- ・電子タバコは害がある？ない？
- ・害があると知っていて何故人はタバコを吸うのか？
- ・タバコのはじまりは？

### (3) 楽しい授業とは (第4時間)

教材研究が終わり、いよいよ指導案づくりに入る。その前に、楽しい授業とはどんな授業なのかみんなで考えることにした。

智士：広大君は授業中よく寝てるけど、どんなとき眠くなるの？

広大：〇〇の授業は眠くなるけど、△△の授業は眠くならないなあ。

琴美：それはどうして？

広大：内容が理解できない。難しい。

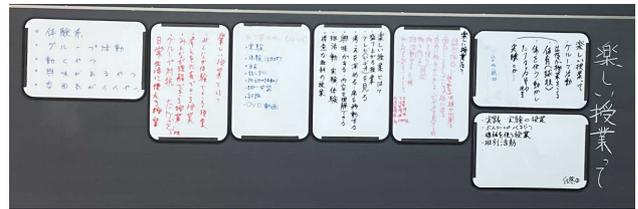
智士：難しい言葉が使われると分からなくなるね。楽しい授業は？

琴美：班活動があるとき。

智士：体験とか実験がある授業は楽しい。

琴美：一方的に先生がしゃべっている授業は楽しくないね。班活動で、考えを深めたりする授業は、自分が分からないところを友達に聞けるからいい。

智士：ビデオとかも興味がある人は効果があるけどない人は睡眠の時間。



生徒達が考えた楽しい授業

班で話し合った後、班ごとに発表してもらいシェアリングを行った。どの班からも共通して出てきたものとして、「班活動がある授業」「体験や実験がある授業」「調べ学習がある授業」「DVDや動画を見る授業」などがあつた。面白い意見として「考えを共有できる授業」「考えを深める授業」「グループ対抗の授業」「座学以外の授業(3分くらいまでならOK)」などがあつた。これらの内容は、普段授業をしている我々教員にとっても、とても参考になる内容であるので、これからの授業改善に役立てていきたい。

### (4) 指導案を作成する (第5時間)

「楽しい授業とは」を考えたあと、実際に自分たちの授業を考えていった。授業の設計図を考えるにあたり、我々教員と同じように略案という形で作成していった。

「喫煙と健康」チームは、前回の授業を受けて、班活動を取り入れることを決め、タバコの害について班でホワイトボードに書いて発表させる形式を採用した。しかし、ある点で話し合いが始まった。

智士：教科書はいつ見せる？

広大：教科書は見せない方がやりやすいと思う。自分たちが言いたいことが全部分かってしまいそうでやりにくいんじゃないかなあ。

琴美：私も見せない方がいいと思う。

智士：僕は、見せた方がいいと思う。授業の時間が短いから見せた方がスムーズに授業が進むと思う。

広大：じゃあ、見せるページをきめておくといいね。

智士：説明するときには教科書を見せながら説明すると全部言わなくても時間短縮になるね。

広大：それに、見せても教科書に載ってないこともたくさん調べてあるから大丈夫だね。

琴美：見せるタイミングは、班活動の後に私達が説明するときにしよう。

みんな：そうしよう。

我々も授業をするときに教科書の使い方については悩むことがある。智士達も教科書の使い方でも議論が始まった。最初、広大や琴美は自分たちの授業のネタが教科書を見ることでみんなにバレてしまうことを嫌がっていたが、智士の「時間の節約」に納得し、見せ方やタイミングなど建設的な意見を出していった。

第2学年1組 保健学習指導案  
令和2年12月3日(木) 第3校時  
場所 共通教室  
授業者

1 単元名 喫煙と健康

2 本時の目標  
喫煙による体への害や危険性を理解させる

3 準備物  
新中学保健体育、新保健体育の学習②、ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、

4 本時の展開

段階	学習活動と予想される生徒の反応 (○)	教師の支援 (・) と評価 (◎)
導入	学習内容の確認 ・たばこについて知っていることを考える (1人) ↓ ・何人かに意見を聞いてもらう	
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">タバコにはどのような害があると思いますか？</p> </div> ○↑について班で考える。 ホワイトボードにまとめてもらう ↓ 資料を出して説明 教科書を出してもらう ↓ タバコの成分について説明 →質問しながら	
終末	まとめ	

修正前の指導案

### (5) 今後の計画

指導案を作成後、以下のように学習を進めていく。

第6時間：指導案修正&プレ授業①

第7時間：プレ授業②（11月26日）

第8時間：授業修正&授業①

第9時間：授業②

第10時間：授業③

### 第11時間：振り返り

プレ授業では各班10分～15分の授業を行い、授業を受けた生徒は、付箋に改善点や良かった点などを記入し、授業チームに渡すようにする。その後、修正時間を経て、本番の授業を行うように計画した。

### 3. ふりかえり

今回保健授業をプロジェクト型の学習にし、さらに各学年発達段階に応じたカリキュラムデザインで実施している。

どの学年も実践自体は継続中であるため、最終的なふりかえりはできないが、ここまでの生徒の様子を見ていて、生徒達の授業に対する意欲・関心は以前の講義型の授業に比べて格段に向上している。また、グループ内の全員が主体的に対話しながら活動する姿が見られた。この、原因として以下のようなグループ編成や発表形式の工夫が考えられる。

- ・ 共通の興味関心を持った内容でのグループ編成（アンケートにより編成）
- ・ 発達段階に応じたグループの人数（1年生4人まで、2年生3人まで、3年生2人まで）

また、探究したことのゴールとして、各学年で以下のようにデザインしていった。

- ・ 1年生：ポスターセッション
- ・ 2年生：授業形式
- ・ 3年生：選択制（ポスター、リーフレット、プレゼン、授業形式）

以上のように現在プロジェクトは進行中である。全てのプロジェクトが終了した段階で、今回の保健学習に本カリキュラムデザインが有効であったか検証していきたい。

to be continue・・・